

おんだしょうを たんけんしょう!

～「スタートカリキュラム」わくわくタイム(生活)～

1. 健康な心と体
3. 協同性
6. 思考力の芽生え
9. 言葉による伝え
10. 豊かな感性と表現

本時のねらい 学校探検を通して、学校の施設の様子や使い方について考えることができ、学校にあるものを見つける面白さやはてなを解決する楽しさ、そこにいる人と出会う喜びに気づき、友達に伝えたり次の探検の目的を決めたりしようとする。

これまでの子どもの姿



学校のはてな、どうしたらいいかな?

「幼稚園の時は荷物をしまふ場所が決まっていたよ。」「みんなで揃えたらカッコいいんじゃないかな。」「ひもが引っかからないようにしまってみようよ。」
→子どもたちの疑問は保育園や幼稚園での経験を活かし、自分たちでアイデアを出し合って解決していききました。

いいにおいをたどってみたい!

「中休みにいい匂いがしたんだ。」「鼻でにおいがするところを見つけたらどう?」「あっちのほうからするなあ。」「あ!みつけた!」
→校庭から返ってきた子どもの一言から、給食のおいだと気づいた子どもたち。目、耳、鼻、手、心、すべてを使ってわくわくした表情で探検に出かけていきました。

学校の中は迷路みたい

「自分がどこにいるかわからない。」「学校にも地図があるかも?」「校長先生に聞いてみたい!」
→日常の経験から地図があるかもとひらめいた子どもたちは、校長先生にもらいに行きました。
「漢字と英語で地図が読めない。」「自分たちで探検したら書けるようにしたい。」「書ける地図がほしい。」
→地図の使い方に悩み、考え、もう一度地図をもらいました。書き込んだり色を塗ったりそれぞれの使い方をしています。

もっと探検したい!

「こんなの見つけたよ!」「鍵がかかっていたら、理由を話して鍵を借りれるよ!」「はてなみつけた!」
→学校の中はまだまだはてながいっぱい!鍵の借り方も身に着け、さらに探検したい場所が広がりました。授業の時間だけでなく、休み時間にも探検に出かける姿が多く見られます。

(活動を通しての、課題、葛藤、悩み)

- ① 諸感覚を使って主体的に解決できるようにするためにはどうしたらいいのかな?
- ② 一人ひとり見つけたことや思いを表現できるようにしたい。探検から帰ってきたときに子どもたちの思いを引き出すにはどんなことができるかな?
- ③ ただ探検するのではなく、目的意識をもって探検できるようにするにはどんな工夫や声掛けが必要なのだろう。

(改善、工夫した点)

- ① すぐに答えを出すのではなく、子どもが自分たちで解決できる方法を考える時間を大切に。「見たい。」「聞きたい。」などの思いを尊重できるように学校全体に協力してもらうことで、解決の仕方の幅を広げるようにした。
- ② 絵、文字、言葉など一人ひとりが表現しやすいもので表せるように、環境を変えた。個人差はあるが、自分の思いを表現することができるようになってきた。
- ③ 「探検に行く→共有する」で終わるのではなく、「探検に行く→共有する→次回解決したいはてなを決める」という流れに変えたことで、一人ひとりが目的をもつことができるようになってきた。

活動のながれ

・：子どもの姿

□：教師の支援

今日の探検で解決したいはてなをマグネットを用いて確認する。(3分)

- ・今日は、1階の理科室をもっと見てみたいな。
- ・前通った時にがいこつが見えたから何のお部屋なのか知りたいな。
- ・畳のあるお部屋は中がどうなっているのか知りたい。
- ・「子どもだけでは入れません」って書いてある部屋にはなにがあるのかな。
- ・みんなが言っていた「虹みたいなどころ」が知りたいな。
- ・同じはてなのお友達と一緒に探検して解決するぞ!

子どもたちの思いに共感し、意欲を引き出す。
前時のふりかえりで、次の探検で解決したいはてなを一人ひとりがもてるように促し、マグネットを貼りながら思い出せるようにする。
学校探検の約束を確認できるようにする。
終わりの時間を子どもたちに伝える。

学校を探検し、気付いたことを表現する。(探検25分、絵や文で表現7分、伝え合う7分)

- ・理科室にはガラスのコップがたくさんありました。びっくりしました。
 - ・ガラスのコップは何に使うのかな。・実験って聞いたよ!
- ・理科室の引き出しは開けられるところと鍵がかかっているところがありました。気になります。
 - ・鍵は自分たちでもらえるのかな。・鍵がかかっているってことは大事なのかもね。
- ・がいこつがある部屋は、他にも道具がありました。少し怖かったです。
 - ・がいこつのほかにもこわいのがあったよ。・それってなんだろう、見てみたい!
- ・子どもだけでは入れない部屋は〇〇先生と一緒に来てもらいました。やさしい先生でした。
- ・印刷室はボタンがたくさんあって押してみたいです。
 - ・押したらどうなるのかな。・印刷室だから、みんなの手紙をつくってるんじゃない?
- ・畳のある部屋はいい匂いがしました。
 - ・畳の部屋がなんで学校にあるのか聞いてみたいな。・なんだかおうちみたいだね。
- ・〇〇さんと一緒にこんなものを見つけました。何か気になります。
 - ・私もそれを見ました。また一緒に探したいです。

探検に行く前に、探検から戻ってきた子どもたちから、発見したことや思ったことを絵や文で表現することを伝えておく。

子どもたちの思いを大切に、自由に学校探検を行えるようにする。そのために、全教職員に学校探検を見守ってもらえるように伝えておく。特に大人の目が必要な場所(印刷室や準備室、和室など)には先生がついて行ってもらえるように協力してもらう。

自分の思いを表現しやすいように、大きさの違う画用紙を用意して選べるようにして、絵や文字など自由に書けるようにする。書くことに抵抗がある子どもは話す言葉で聞き取れるようにする。

「～～がありました。～～と思いました。」のように子どもの気持ちや感じたことを引き出せるようにする。「なぜ?どう思う?」といった問い返しをしながらクラスのみなを巻き込めるように声をかける。

諸感覚を使って表現できるような声かけをする。

学校探検の振り返りから、次に行きたいところや解決したいことを決める。(3分)

- ・畳の部屋がなんであるのか知りたいな。
- ・理科室の中の物はいつ使うのか気になるからまた行きたいな。
- ・〇〇さんと同じはてなだから次は一緒に行きたいな。
- ・早くまた学校探検がしたいな。

出てきたはてなや発見から、自分の次回の探検の目標を決める。
同じ目的意識を持った人同士で協力ができるよう、クラスの中で共通のはてなが出てきたら共通のはてなとして扱うことも考えられる。
次回の探検への期待がもてるように声をかける。